

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

カナダ モントリオール補習授業校

目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
- ④ 実際の取り組み
- ⑤ 苦勞した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

①学校の規模や子どもたちの実態

- 5月30日（土）現在122名の児童生徒が在籍。
- モントリオール圏に在住の家族がほとんどだが、遠くは150kmほど離れた街から通学してくる子どももいる。
- 在籍者のうちおよそ2割が日本へ帰国し、8割は、現地在住の日本人や国際結婚の家庭の子どもたち。
- 今のところコロナ感染者の情報は入って来ていない。

② 現地の新型コロナウイルス事情

- カナダでの新型コロナウイルス（COVID19）感染者数は90,000人を超え、ケベック州ではその半数以上の50,000人超を数える。そのまた半数以上の25,000人がここモンリオール市。
- 死者に至っては、モンリオール市だけで2,700人を突破してしまった。言わば、コロナ感染のエピセンター。
- 日本全体の感染者数17,000人、死者数900人と比べれば、モンリオール市の深刻さがお分かりいただけると思う。（5月30日現在）

③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければ いけなくなった経緯

- 本校は、1972年創立のカナダで最も歴史のある補習校だが、開校以来48年間で休校の記録があるのは、1998年のアイスストームでおよそ1か月、2000年以降は、大雪による道路事情の悪化による3回ほど。
- コロナ禍では、2020年3月14日(土)から始まったロックダウンで3学期最後の2週、4月から6月までの1学期は完全封鎖が続いている。
- モントリオール圏以外の地域では徐々に小学校の学校再開が5月19日(火)から段階的に始まっている。中学校以上は9月再開が決まっている。
- 郊外から補習校に通学する小学部の子どもたちは、現地校が再開したものの登校してくる児童は4分の1以下という状況のようである。

- 補習校ではこのような現実を踏まえ、児童生徒が楽しみにし、ご家族が期待を込め、先生方が門出を祝う卒業式、嬉しい入学式も、残念ながら延期または中止せざるをえない状況になった。
- ロックダウンが続く限り、大事な学校行事をはじめ、授業参観、ブックフェア、サマーキャンプも次々に中止が決定された。
- 「気がつけば悪夢」のような状態で、最優先事項は「子どもたちとそのご家族、教師、事務の方々学校関係者の健康、安全」である。
- そして「補習校に就学している児童生徒の学力の維持、向上」のため、いままで経験したことのないコロナ対応、ロックダウン下での授業を組み立てた。

④ 実際の取り組み

- 本校は各学年1クラス最大20名の定員制をとっている。
- 新学年が始まる4月は各学年とも、ケベック州の現地校同様、再開の時期が不明で情報が錯綜している中スタートした。
- 当初は9クラス中4クラスがオンライン授業、4クラスがE-mailでのプリント学習を指示し、1クラスがYouTube配信を試みた。
- 中学部はオンライン授業についていけるだけのテクニックと一定時間画面でひとりで学習できる集中力があるが、小学部低学年は保護者の協力が不可欠。したがって、各担任の判断でやれることから学習を開始した。

⑤ 苦勞した（している）こと

- 始まって直ぐの4月中旬の段階で、一部の保護者からの不満があり、2家族4名の退校者を出してしまった。先生方教務関係者は通常の数倍の時間とよりよい教育環境つくるための模索、努力にもかかわらず残念な結果が出て来てしまった。授業料に見合う学習結果が得られないという理由からだった。その時点では、すべてのクラスがオンライン授業での展開を始めていた。
- その後、州政府から学校の再開の時期が5月中旬と示され、補習校としても準備にかかった。しかし、モンリオール圏のコロナ感染の勢いは、収束の目途がたたず延期され、5月に入ってから、モンリオール圏の全ての学校の再開は9月からとの決定がなされた。

- 5月末現在、小学1年から中学3年まで、各学年「Zoom」「Webex」「Google meet」「Google Classroom」「Google Hangouts」「Padlet」などのプラットフォームを使って授業を展開している。
- 授業は土曜日中心だが、家庭で使えるPC等が1台のところも多く、兄弟での授業時間の重複を避けて、金曜日に授業をしている学年もある。時間は1時間～4時間。年齢によって対応できる時間を調整している。人数が多いクラスでは、クラスを2つに分け、同じ内容の授業を1日に2回行っているケースもある。
- 使い慣れていないプラットフォームでは、当初、授業をする側、受ける側の双方で、「うまく接続できない」「PCのパフォーマンスに問題がある」「カメラがない」「マイクが作動しない」「インターネット環境が悪い」「調整しても親が仕事でも使っているPCの家族間での奪い合いになる」などの問題が起きていた。授業や練習問題、テストで使うプリントの印刷が膨大になり、インク代やインク購入のための店がロックダウンで閉まっていたり、インターネットでの購入を余儀なくされたりという問題も追隨した。

⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

- 学習評価に大きな課題を残しているが、オンライン授業でも子どもたちとの意思疎通が割とでき、子どもたちの性質もある程度分かることに、喜びというよりはおどろき、意外性を感じている。
- それほど頻繁にはないが、冬の大雪の中、危険を冒して車で移動してくる多くの保護者、教員、学校関係者のみなさんには、オンライン授業の可能性は朗報かもしれない。

⑦ 今後への課題

- (1) 1学期の国語、算数、数学、理科、社会、生活科のカリキュラムの充足度、1学期の学習評価。
- (2) 補習校再開時の健康、安全対策（校舎内外）。